

全日本GT選手権のレーシングホイールをルーツに、1ピースとして立ち上げられたのがワークエモーションだ。しかし、スタンシーンやワイドボディスタイルの盛り上がりとともに、1ピースでカバーできないケースも増加。そこで、スポーツホイールとしての性能追求はそのままに、多様化する足元魅せに対応するべく、ワークエモーションは1ピースのデザインを落とし込んだ2ピース拡充にも取り組んできた。

さて、今回はスタンダードなスポーティさを放つ5本スポークが人気のT5R 2Pをクロ

ーズアップするが、注目すべきは最新モデルのZR10 2Pやロングセラーを誇るCR 2Pなど、すべての2ピースモデルに通じるオプションのカスタマイズメニューだ。

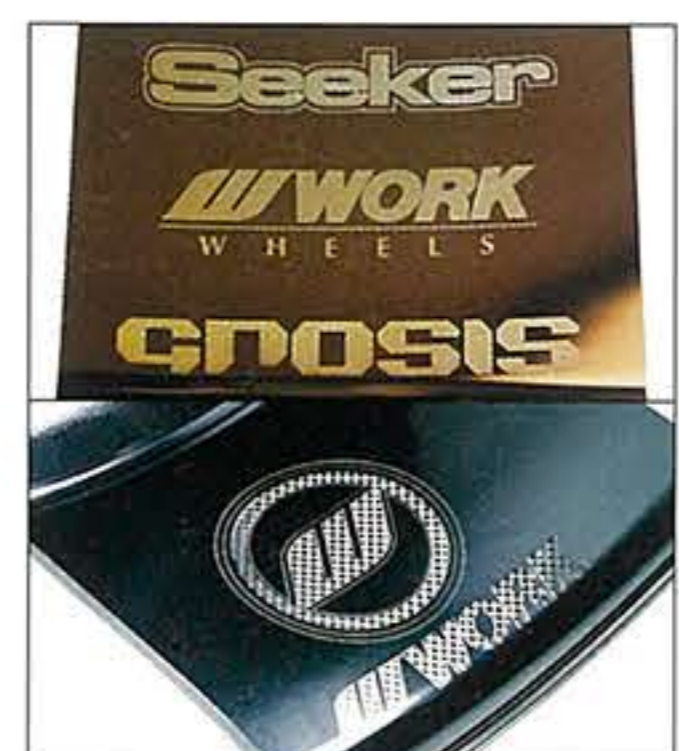
というのも、ミリ単位でインセットオーダー可能なサイズ面だけでも履きこなしの自由度は大きく高まるが、ワークエモーションの表現力拡大はそれだけに留まらない。ディスクやリムの豊富なカラーアレンジに加え、センターキャップもレス仕様込みで12パターンを展開。仮に同じサイズだとしても、カスタマイズを駆使すれば実に19

## 唯一無二を満たす多彩な表現力



32通りもの魅せ方がチョイス可能となっている。

こうした唯一無二を満たす多彩な表現力は、ライバルと被らない履きこなしを求めるユーザーにとって非常に頼もしい味方。また、従来ならワンオフでペイントやラッピングを追加することとなっていたこだわりのアレンジが、メーカーオプションで手軽に実現できるのも魅力的だ。チューニングカーの足元は、自由に楽しんで個性を見せ付けたい。そう考えれば、性能と魅せ方を高次元で両立するワークエモーションの2ピースモデルは逸品揃いと言えるだろう。



サイズやカラーはスタンダードのままオリジナルリティを打ち出したいと考えるなら、リムに施すレーザータトゥーが見逃せない。オリジナルデータでのオーダーもOKだ。

## WORK WORK EMOTION T5R 2P

18inch	7.0J~12.5J	¥66,000~¥81,400
19inch	7.5J~12.5J	¥75,900~¥90,200
19inch (SR)	8.0J~12.5J	¥77,000~¥90,200
20inch (SR)	8.0J~12.5J	¥88,000~¥101,200

☎ ワーク ☎06-6746-2859  
https://www.work-wheels.co.jp

PHOTO: 清水良太郎  
REPORT: 村田純也

### ●グリミットシルバー ／バファルマイトリム

陰影が美しい光輝調のグリミットシルバー。ディーブコンケーブディスクに鏡面仕上げのバファルマイトフルリバーズリム、オプションとなるセンターキャップヘフラットタイプのシルバーを添えたT5R 2P。シルバー統一でユーロスポーティな足元が打ち出せる。



T5Rはセンターキャップレス仕様だが、フラット&ハイのセンターキャップをオプションで11タイプスタンバイ。コンケイブで落とし込んだ先の立体感演出に使いたい。



駄肉を削ぎ落としながら剛性を高めるため、スポークサイドにはH鋼のようなリブを造形。シャープなスポーティさへつながらスリムな天面を性能とともに引き出した。



フランジからセンターまで流れるように落とし込んでいくコンケイブラインは、幅を変化させるサイドリブ効果も加わって圧巻の深みを放つ。



2ピースはディスク剛性を高めるために開口部の裏側へ補強をプラス。表現力を拡大するだけでなく、スポーツホイールとしての性能引き出しも抜かりはない。



# WORK

ワーク

<https://www.work-wheels.co.jp>

## ホイールトレンド

一斉調査

支持され続ける名機



### EQUIP 03

サイズ：14×5J～15×13J  
価格：4万8400～7万400円

当時の商品名はEQUIP EXCEL (エキップ・エクセル)。それをモチーフとした、復刻デザインで登場したのが「EQUIP 03」だ。ブラックカットクリアとゴールドの2色が設定され、幅広いクルマに合わせやすい。



伝統を超えた  
永遠性

### EQUIP 01

サイズ：14×5J～15×13J  
価格：5万600～7万400円

ハコスカやS30Zなどの旧車や、AE86等のネオクラ車等にジャストマッチする4スポークデザイン。アラフィフ以上の世代なら懐古の情が嗜め、若年層にとっては、逆に新しさを感じるシャープで秀逸なデザインだ。



レース用ホイールが  
ストリートに

### EQUIP 40

サイズ：15×5J～15×13J  
価格：5万600～6万8200円

当時、レース専用として活躍していた古き良き時代のホイール。それをモチーフに、約40年の時を経てストリート用として登場。厳密に言うとエキップの復刻ではないが、当時のレーサーを知る世代には、垂涎のモデルだろう。

